

TONARI

2013春号

グッドネーバーズ・ジャパン会報



目次

- P2 海外事業
P3
P3
P4 東日本事業
P5
P5
P6 イベント
P6 文化紹介
- ・ヨナスクールに新たな風
・グアテマラ緊急支援
・エチオピア家畜用ため池事業
・三陸の高校生、
　　インドネシアをゆく
・「アートセラピー」心のケア
・東日本大震災
支援事業のこれまで
・チャリティイベントのご報告
ベトナムの食



海外事業

コミュニティ
開発

ヨナスクールに新たな風



授業中は元気に挙手！



夏休みのサマースクール



新しいヘルスセンター



チャドのヨナスクールに、新しく保育園とヘルスセンターができました！

ヨナスクールとは、韓国人俳優の故パク・ヨンハ広報大使がチャド共和国でボランティア活動をされたことをきっかけに、日本や韓国の皆様から寄せられたご寄付で建設された小学校です。ファシャアテレという地域で唯一の小学校であり、学校のない他の村からも合わせて、5歳から12歳までの子ども800人が通っています。授業料の70%をグッドネーバーズが負担し、残りは保護者が負担しています。教室3部屋の他に男女別トイレ、職員室、新しくできた保育園とヘルスセンターがあります。壁をよく見ると、ボランティアさんの手形がお花のように咲いています。(右図)



仲良く登校♪



壁にはすてきな絵が



みんなで歌いながら下校♪



ヘルスセンターでは新しく来た医師が、月曜日～金曜日、7時～17時まで勤務しており、子どもだけでなく村中の人が診療に訪れます。また、子ども達の栄養改善プロジェクトとして運営している、ヨナスクールの敷地内にある家畜農園とバナナ園も順調です。

チャド国内には3年前のファシャアテレ地域のように、教育の機会を必要としている子どもたちがたくさんいます。グッドネーバーズは、ヨナスクールの維持はもちろん、ヨナスクールのような学校を必要とする他の地域の子ども達のためにも活動を続けてまいりますので、これからも応援よろしくお願いします。

ヨナスクールの子ども達の様子をYouTube、HPから視聴できます。是非ご覧ください！



<http://youtu.be/uwb3MA5a4fU>

算数の授業の様子です。みんな積極的に授業に参加しています。



<http://youtu.be/4YXdb1ZpRFY>

この日は先生の指揮の下、みんなで歌いながら下校していました。元気がもらえる1シーンです。

緊急支援

グアテマラ地震緊急支援

中米グアテマラで2012年11月7日（日本時間8日）に発生したM7.2の大地震の被害は、死者52人、負傷者2万5千人以上にものぼりました。グッドネーバーズ・ジャパンはジャパン・プラットフォームの助成を受け、特に深刻な被害を受けたサンマルコス県に小泉事務局長と谷口スタッフを派遣し、緊急支援を実施しました。被災した地域は標高2000mを超える高地で、朝晩は氷点下まで気温が下がるなか、避難所や半壊した家屋で日々寒さに耐えながら暮らしている方々が多くいました。



倒壊した家屋



しのぐための修理や小屋建設の資材が緊急に必要とされていたため、グッドネーバーズ・グアテマラと共に家屋修復のための資材と防寒着を310世帯に配布しました。

「本当にありがとう。」なかにはスタッフ一人ひとりと握手し、何度もお礼を言ってくださる方もいました。



物資配布時の様子

グアテマラで緊急支援をした谷口スタッフより

「時差がある日本とグアテマラの距離は遠いですが、地震を避けて通れない国だということは共通しています。現にグアテマラの首都は地震の大被害を受けて、遷都されてきた歴史があります。そして昨年の地震で、多くの人が住む場所を失いました。街は未だに崩壊した建物がそのまま残っており、今回の支援地域も東北と同様に、元通りになるにはまだまだ時間が必要です。でも、一歩ずつ、進むしかありません。そしてそのお手伝いができる限りしていくことが私たちの役目なのだと再確認しました。」



コミュニティ開発

エチオピアに家畜用のため池

2011年、エチオピアを含む「アフリカの角」と呼ばれる東アフリカ地域は、大干ばつにより甚大な被害を受けました。なかでもエチオピア・オロミア州南部に位置するボレナ県の牧畜農家の多くは食糧や水不足に加え、所有する家畜の大半を失い、家畜用飲料水の確保が求められていました。そのためグッドネーバーズは2012年9月から2013年2月まで、同県ドゥグダ・ダワ郡にて、117の牧畜農家を対象とした家畜用給水施設を建設しました。

ため池掘削作業には約200名の現地住民を雇用し、大きな雨水を溜めるためのくぼ池が完成しました。汲み取り作業の効率化やため池の維持のため、階段、家畜侵入を防ぐフェンス、雨水の量を調節するための水路、堤防を設置しました。また、住民の中からため池管理委員を選び、ため池の管理利用法についてのトレーニングも実施しました。ため池管理委員からは「心配しないで！このため池は自分たちが責任を持って管理する！」との心強い声もあり、今後の活用が期待されます。

※この事業は、ジャパンプラットフォームの助成を受けて実施されています。



完成したため池

東日本事業

復興支援

三陸の高校生、インドネシアをゆく



第一回事前研修の様子

震災によってこの町を離れた人が戻りたい、この町で暮らしたいと思えるような町にしたいです。そのためには、単に復興するだけでなく以前より、よりよい町にする必要があると思います。難しい事ですが、どの年代にとっても住みやすい町にしたいです。今回の研修で参考になるものを得たいです。

(岩手県山田町山田高校2年生女子)

「復興」とは何か。

この答えを被災地の高校生自身に探ってもらおうと、グッドネーバーズ・ジャパンは、岩手県の高校生を対象に2013年3月16日（土）から27日（水）、インドネシア・スマトラ沖地震（2004年）の被災地アチェ州を訪問する研修を実施します。主な目的はインドネシア・アチェ州の防災への取り組みや現状の問題を学び、高校生の視点から自国の取り組み・防災教育を振り返ること、故郷の復興を担う次世代リーダーとなる素質を身につけること、インドネシアの人々との交流を通して両国の友好関係と相互関係を促進することです。

「自分の住んでいる町が好き。これから町づくりに携わりたい。」

「アチェの復興の在り方や今の暮らしが見たい。」

「内陸に住む私が被災地のためにできることを考えたい。」

岩手県内の被災地域を中心に研修参加者を公募し、厳正な選考の結果、今回旅立つ16名を選出しました。



第一回事前研修で岩手・三陸の魅力について話し合いました。



研修生の集合写真
故郷への思いや復興への強い意志を持っています。



スカブミ県内にある高等学校
～SMAN1 Kota Sukabumi～

研修生はこの高校の生徒のご家庭にホームステイします。

2013年1月27日の第一回事前研修では、「復興」を達成するには何をすれば良いのか、またインドネシアの人々に伝えたい岩手・三陸の魅力を話し合いました。これを通して多くのことを吸収する研修にしようと意欲を高め合うことができました。この研修で得る「復興」への鍵は一つではありません。「復興」を本気で考える16名の、これから良いステップになるよう、スタッフ一同全力でサポートしていきます。

Facebookで新着情報を、是非ご覧ください。 <https://www.facebook.com/GNJP.Sanriku.Indonesia>

復興支援

「アートセラピー」心のケア

グッドネーバーズ・ジャパンは2012年7月より心のケアプログラムの一環として、岩手県大槌町の児童施設でアートセラピープロジェクトを実施しています。子どもたちが想像力を活かして思うままに表現することにより、内に秘める感情や欲求を発散することが目的です。開始直後の子どもたちは遠慮気味に塗り絵をしていましたが、徐々に好きな絵を描いたり、折り紙・紙粘土で大胆に遊び始めました。手の汚れなんて気にしません！

2012年10月26日、おさなご幼稚園で実践されたアートセラピーにご協力いただいた、色彩心理学実践の第一線で活躍される末永先生は「それぞれの画材には意味があり、子どもは本能的に自分に適するものを選びます。」とおっしゃり、自由に創作活動ができる環境の重要性を強調しました。

〈アートセラピー 子どもの作品展を開催〉

これらの子ども達の作品は3月19日～25日まで、シープラザ釜石（岩手県釜石市鈴子町）にて展示されています。

※この事業は、赤い羽根「災害ボランティア・NGO活動募金」の助成を受けて実施されています。



思いっきり遊ぶ子ども達



素敵なお絵が完成しました！

復興支援

東日本大震災、支援事業のこれまで

震災から2年が経ちました。こちらではグッドネーバーズ・ジャパンが「私たちにできること」を探しながら実施してきた2年間の活動内容をまとめました。

1. 支援物資配布プログラム

岩手県の避難所や幼稚園で緊急支援物資を配布。

（震災直後から4月、その後も必要に応じ、物資を支援）

2. シャワーブースプロジェクト

釜石市、大槌町の避難所等に仮設シャワーブース20基を設置。

（2011年4月から 避難所閉鎖に伴い随時終了）

3. 釜石保育園増築プロジェクト

津波の被害を受けた釜石保育園にプレハブ形式のログハウスを設置。

（2011年4月～7月）

4. 清掃ボランティア派遣プログラム

2011年4月から5月にボランティアによる泥かき、瓦礫撤去作業。
6月から11月まで河川清掃を実施。

5. 心のケアプログラム

臨床心理士による心のケアアセスメントのほか、遊び場支援、アートセラピー、仮設住民を対象としたパソコン教室を実施。

（2011年5月～継続中）

6. 漁業再開プロジェクト

漁業の再開加速を図り、鮭大型定置網漁の機材や仮番屋などの設備を支援。

（2011年8月～2012年5月）

7. 復興イベントプログラム

2011年に、「お母さんと子どものフリーバザー」（5月）、「やっぺし！大槌再興祭り」（6月）、「カフェkissANA」（9月）、「大槌町鮭帰願祭」（12月）などを実施。

8. 大槌町社会福祉協議会支援プログラム

大槌町社会福祉協議会にスタッフが出向し、運営や活動、事務作業の効率化などサポート。（被災直後～2012年10月）

9. ガードレールプロジェクト

全国から集まった計124万円のご寄付により、仮設住宅で安心して暮らせるよう、大槌町の危険な道路にガードレールを設置。

（2011年12月～2012年5月）

※このほか岩手県の高校生のインドネシア研修事業も実施しています。

レポート

楽しみながら寄付：チャリティーイベント

【南アジア料理の王様】ビリヤニパーティー★

2012年11月4日に、世田谷区経堂のレストラン、ビリヤニマサラ様でビリヤニパーティーを開催しました。ビリヤニとは中東や南アジアで食べられるスパイシーな炊き込みご飯のこと、今回はグッドネーバーズ支援国であるインド・ネパール・バングラデシュのビリヤニを食べ比べつつ、グッドネーバーズの活動を紹介しました。



3種のビリヤニを食べ比べ



アジアのお酒を楽しむ皆さん

Charity Drinking Night♪

2012年11月14日には、世田谷区経堂のSocial Energy Cafe 様で、アジアの珍しいお酒と障害者福祉施設の食材を使ったコース料理を堪能できる大人のためのチャリティーイベントを開催しました。当日、参加者の皆さまからは、「食べるチャリティーが新鮮だった」「食べて社会貢献ができて楽しかった」などの感想をいただきました。

※イベントの売り上げから経費を差し引いた分はアジア・アフリカで実施する地域開発に使わせていただきます。

支援×文化

国名は知っていても、どんな国かは意外と知らないものですよね。グッドネーバーズの活動と共にその国の文化も紹介します。各国の独自の魅力に触れてみてください！

文化紹介

ベトナムの食



ベトナムと いえば フォー



香草(私には見分けがない色々な葉)は別皿に大量に盛られます。

パクチーが大嫌いでしたが、毎日の鍛錬の結果、いつしか好モに!!

その他にも フーティウ(乾麺)

ミエン(春雨)ブン(細い米麺)
など...麺類もスープも豊富!どれもおいしい!

食べ物

実は生産量
世界2位

コーヒー

どんなに田舎でも必ずあるカフェ。とっても小さな店とコーヒーさえあれば、そこはカフェになるのです。練習したての豆を練習して飲むのが、ベトナム流。



現地調査でミャンマーへ

グッドネーバーズ・ミャンマーが新しく事業を始めたマグウェ管区シンバウンウェは、ミャンマーの中央にある乾燥地帯に位置しています。この地域一帯では水不足が問題であるため、齋藤スタッフが現状視察に行きました。調査ではそのほかに、村の住民へのインタビューも実施しました。この結果、見えてきたことについて齋藤スタッフにお話を聞いてみましょう！

齋藤スタッフが訪れた地域での課題は何ですか。



同じ地域の中でも村によって状況は様々でしたが、私が見てきた範囲で共通している課題は、乾燥地帯の水の問題です。村には水道がないため、毎日井戸やため池などから汲んでくる必要があります。乾季は、井戸の湧水がなかなか上がってこないため1日の水の確保に時間がかかり、雨季は、泥水が増え水が濁ってしまうなど水の問題は尽きません。ただ、「慣れているからお腹は痛くならない」「水が足りなくなりそうなら節約すればいい」「時間がかかっても待てば水は湧いてくる」と住民の間では大きな問題として捉えられていないようでした。



では、住民の間で問題とされていることはどのようなことでしょうか。



多くの人が村の中で日雇いとして働いているために収入が少ないとや、子ども達が満足な教育を受けられないことです。日雇いの仕事は、ピーナッツ畑での農作業を手伝うなどで、不定期なだけでなく、必要とされる労働力も限られています。収入が不安定だと、学校に通えなくなる子どももいます。学校に行っている子ども達であっても、窓が壊れ雨が吹き込み、床の底が抜けている教室、先生が少なく自習時間が長いなどの学習環境に問題があります。また多くの村には小学校までしかなく、進級するには村を出て下宿しなければなりません。お金もかかるため、進学を諦めざるを得ない子ども達がほとんどです。

現地調査をして印象に残ったことは何ですか。



決して裕福とはいえない状況のなかでも、住民の教育に対する関心がとても高かったことです。何か支援をするとしても、ニーズに合い、効果が持続しなければ意味がありません。村の人たちが主役になって、グッドネーバーズ・ジャパンに何ができるか。今後も調査を続け、持続性のある支援を検討していくまます。

コラム

ミャンマー、生活の横顔

みんなで団欒

外国人の移動が制限されているミャンマーでは、田舎に行くと外国人を見たことがない人がほとんどです。日本人が来た！と噂が広まると、床の底が抜けてしまうのではないかとひやひやするほど、近所の人たちが集まりました。皆さんとても気さくな方々で、インタビューが終わると、お茶とラペットウ**（右図）などを出してくれます。「家族は何人？」「日本人って肌が白いの？」「日本では何を食べるの？」など、日本人・日本について興味津々。最後には「毎年遊びに来てね！」と言って笑顔で見送ってくれました。



ラペットウ

**（発酵させた茶葉と揚げ豆などを混ぜたミャンマー独特のお茶受け）

「ご飯食べた？」

「ご飯食べた？」と村のある女性にミャンマー人スタッフを通して聞かれました。ご飯時でもないのにと思いながら「食べたよ。」と言うと、女性は満足そうにうなずきました。後でスタッフに聞くと、「ご飯食べた？」というのは、挨拶だそうです。ここではお客様にごちそうする習慣があるので、それが挨拶になるのです。「ご飯食べた？」「食べたよ」が挨拶だなんて、なんだか温かいですね。

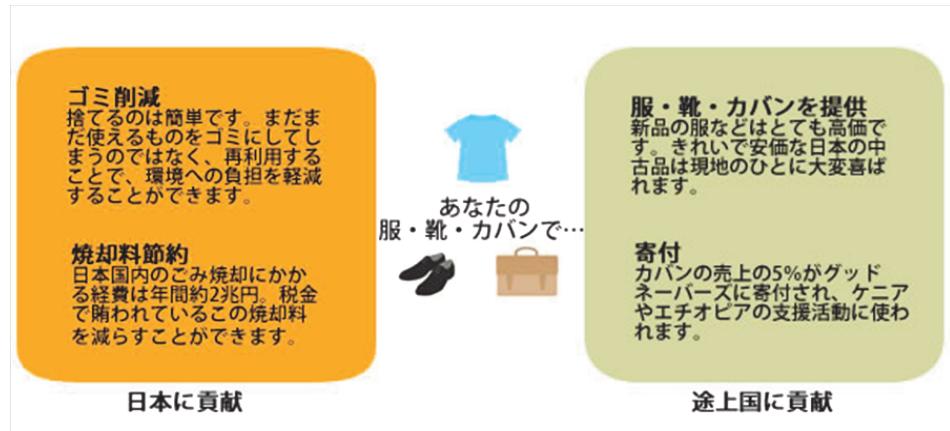


お知らせ

あなたの不用品が誰かの必需品になります

株式会社マツユキリサイクル様は、紙資源のリサイクル事業を行っている企業ですが、近年は社会貢献の一環として、日本で回収した服・カバン・靴などのリユース事業を新たに展開し、開発途上国の人々を中心に提供しています。現在、同社が行うカバンのリユース事業の売上の5%がグッドネーバーズのケニアとエチオピアの地域開発事業に寄付されています。

この寄付金は学校や図書館運営、健康診断、給食、学費・文房具の提供、井戸、職業訓練等、貧困に苦しむ地域の子ども達の教育支援や、子どもたちを取り巻く環境改善の活動に使われます。身近にできる社会貢献としてこれらの物品収集に取り組んでみませんか？



<靴や洋服を送る方法>

① 服や靴を仕分ける

回収できるもの、できないものがありますので必ずサイトをご一読いただきか、お問い合わせください。

② 発送先を下記に確認する

株式会社マツユキリサイクル様

電話番号：0743 - 78 - 1299

Email :

matsuyuki1299@ybb.ne.jp

③ 段ボールに詰めて発送

送料はご負担ください。

詳しくは↓↓

<http://www.matsuyuki.co.jp/reuse.htm>

をご覧ください。

汚れのあるもの、破れているものは回収できません。

※送付先は株式会社マツユキリサイクル様になります。グッドネーバーズ・ジャパン事務局に届いた場合はお受け取りできませんのでご注意ください。

編集後記 会報「TONARI」をご愛読いただき、ありがとうございました。これもひとえに編集に携わってくださった方々のおかげです。初仕事であった本誌の制作では、多くのことを勉強させていただきました。特に三陸の高校生の記事を作成して、同じ高校生として私も何か行動したいと思いました。これからも皆様とグッドネーバーズの架け橋になれるよう、邁進してまいりますので、よろしくお願ひいたします。 編集 市川紗也佳



お問合せ・資料請求
[Tel] 03-6423-1768
(平日 10時～18時)
[Email] sup@gnjp.org

✿住所変更のご連絡をお願いします！

ご住所を変更されたサポートー様は、お手数ですが、グッドネーバーズ・ジャパン事務局までお電話、またはメール(左記参照)にてご連絡ください。

子どもサポーター

検索

発行：特定非営利活動法人 グッドネーバーズ・ジャパン

〒143-0016 東京都大田区大森北2-14-2大森クリエイトビル3階

[Tel] 03-6423-1768 [Fax] 03-6423-1766 [Email] admin@gnjp.org

[URL] <http://www.gnjp.org> [Facebook] facebook.com/gnjapan [Twitter] @GNJapan